

あめつち かみがみ ふるさと たた
天地の神々と郷土を讃える ひろしま神楽

芸北神楽(旧舞)
八岐大蛇

北広島町
 ありた
有田神楽団

団長:小田藤夫

■出演者

素戔鳴尊 郷田洋平
 七人目姫 郷田 薫
 奇稲田姫 郷田 薫
 足名椎 辰崎 圭
 手名椎 大丸義明
 大 蛇 隅井秀司
 大 蛇 立盛翔太

昭和29年、有田神楽団は他四団体と共に初めて県の無形民俗文化財の指定を受けられました。そして、戦後の芸北神楽発展の礎として活躍された神楽団の一つです。中でも八岐大蛇は、名人芸として讃えられ国内外で高い評価を得られてきました。この物語は、七人目の姫が大蛇に飲み取られる場面から始まります。一年の後、八人目の姫が飲み取られる季節となり、姫と老夫婦が嘆き悲しむ処へ須佐之男命が高天原から舞い降りてきます。爺は、その詠を聞き大蛇に毒酒を飲ませ、大蛇の酔い伏した処を退治します。そして最後に大蛇を切り裂くと一振の刀が出てきます。八岐大蛇は、鉄づくりの嘗みと年に一度 大洪水をもたらす古代の中国山地の姿を言い、八人目の姫・奇稲田姫は名前のように出雲平野の米づくりだったのです。



■プロフィール

有田八幡神社を中心に氏子の人々によって神楽団を編成し、秋の収穫を祝福し氏神様に感謝する神事として今日に伝承されて来たものである。現在16才から79才まで23名の団員があり、50年以上精神奉仕した者もいる。秋祭りの夜は夜が明けるまで舞い続けるが、今日では、各地の氏神祭や招魂祭、その他の行事(イベント)に招待を受け、四季を通じて上演奉納している。

中国山地の山間を悠々と流れる中国太郎・江の川。石見地方で成長した神楽風土は、川を遡り、阿須那系石見神楽として原田神楽団のある地域に伝わりました。江戸時代の終わりから明治の初めの頃です。原田神楽団は、古き伝統を大事に守りながらも、戦後の高田舞いの新しい内容・構成の神楽を融合させ、昭和54年には県の無形民俗文化財に指定され、現在芸北神楽を代表する神楽団の一つです。天の岩戸は弟・須佐之男命の乱心を恐れ、天照大神が岩屋に隠れられると、天地は常闇となり災いは重なります。そして、高天原の神々が相謀り大神を岩屋からお迎えする物語です。自然の営みに従い、農耕に暮らした古代の人々にとって、天照大神=太陽の神が森羅万象の源であったことを伝えます。



■プロフィール

私たち原田神楽団は、高宮町の原田八幡神社を守護神として祭礼にいそしんでおり、上演可能な演目は17以上のものを保持しております。「後継者育成」「地域文化の伝承」これは原田神楽団のテーマであり、地域の方々の御協力により子供神楽を発足しました。次の時代を担ってくれる若い世代を育てながら更なる発展を目的に団員一同地域の方々の支援をうけ頑張っておりますので、温かいご支援ご指導をよろしくお願い致します。

芸北神楽(旧舞)
天の岩戸

安芸高田市
 はらだ
原田神楽団

団長:今田和哉

■出演者

天照大神 石川 虎
 思兼之命 今田和哉
 児屋根之命 舩田 洋
 太玉之命 河野英利
 細女命 垣内和久
 手刀男之命 水重 剛

江の川によって伝わった阿須那系石見神楽。中国山地を越えてきた矢上系石見神楽。戦後、旧高田郡で創作された高田舞い。そして現在、これらを時代の流れに適応させながら広島文化として再構成したものを芸北神楽と呼びます。上河内神楽団は、高田舞い発祥の地に在って、新旧の神楽魂を受け継ぎながらも独自の創作力と風格を持つ神楽団の一つです。紅葉狩は、信州・戸隠山の鬼女退治の物語です。江戸時代の謡曲・紅葉狩を神楽化した演目ですが、将軍・平維茂が鬼の化身の美しき姫に誘われて、宴の中で酔い伏してしまいます。厳しい冬を過ぎて、春の桜。暑い夏を越して秋の紅葉と日本の四季の彩りがどんなにすばらしいかを伝えます。



■プロフィール

上河内神楽団は明治初期より昭和30年代までは本村神楽組と称し、その後地元の地名を付け、上河内神楽団に成り、戦時中も秋の大祭は一年も休む事もなく続けて来たのです。最近若い人達の熱心な練習で各地の大会等で優秀な成績を上げる様に成り、昨年は4回も優勝をさせてもらい、本年も団一丸と成り、第一マナーを守り立派な神楽団を作る事に頑張る所存です。今後共若い人達の育成に精進する所存です。宜しくお願い申し上げます。

芸北神楽(新舞)
紅葉狩

安芸高田市
 うえこうち
上河内神楽団

団長:石川正義

■出演者

平維茂 後藤 陸
 藤原三成 政池浩之
 武内ノ神 大野政弘
 鬼女大王 石川啓介
 鬼女赤蜘蛛 石川龍也
 鬼女白蜘蛛 藤田浩記
 鬼 石川直樹

鬼 戸田邦昭
 鬼 下田芳彦
 大太鼓 河野達也
 小太鼓 大野義信
 手打鉦 藤田隆幸
 笛 中村慎吾

ひろしま 神楽の祭典

プログラム



あめつち
天地の神々と
 かみがみ
郷土を讃える
 たた

日時:平成18年7月9日(日)

開場12:00 開演13:00~

場所:広島国際会議場

フェニックスホール

財団法人地域創造助成事業(平成18年度 地域伝統芸術等保存事業)

■主催:ひろしま神楽の祭典実行委員会(広島県、広島県教育委員会、財団法人ひろしま文化振興財団) 中国放送

■後援:社団法人広島県観光連盟、朝日新聞広島総局、産経新聞広島支局、山陽新聞社、中国新聞社、日本経済新聞社広島支局、毎日新聞広島支局、読売新聞社大阪本社、NHK広島放送局、テレビ新広島、広島テレビ、広島ホームテレビ、エフエムふくやま、広島エフエム放送、広島リビング新聞社、尾道ケーブルテレビ、KAMONケーブルテレビ(東広島ケーブルメディア)、ふれあいチャンネル、三原テレビ放送、ひろしまPステーション76.6FM



宝くじは
 豊かさ築く
 チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
 役立てられています。

あめつち かみがみ ふるさと たた

天地の神々と郷土を讃える ひろしま神楽

Kagura Stage Program

大会の開催にあたって

神楽は、自然の恵み・五穀豊穡を喜び、収穫の秋には八百万の神々と先祖の魂をお迎えするとともに、明日への活力を生む農耕儀礼として今も全国各地で保存・伝承されています。中でも広島県は、「安芸十二神祇」「芸北神楽」「比婆荒神神楽」「備後神楽」など、それぞれの地域の伝統を大切にきた多くの神楽団が活動しており、全国でも有数の神楽どころです。神楽がその地域の郷土（ふるさと）を想い、育てる心の象徴として、また古里（ふるさと）を振り返る時の誇りとして、人々の生き方を支えてきたと言っても過言ではないでしょう。「21世紀は心の時代」と言われています。大量の情報が溢れる国際社会にあって、物の豊かさから心の豊かさを求める時代に入りました。しかしながら時代を超え、古代から脈々と継承されてきた日本の精神の表現である郷土芸能を守り、伝えていく事は容易な事ではありません。神楽もその例外ではなく、すでに舞台芸術として発表する神楽団もあるものの、その大半は高齢化と後継者不足に悩んでいるのが実情です。

「ひろしま神楽の祭典」では、農耕儀礼・神楽の精神を源とするものの、それぞれの成り立ちや歴史の異なる県内の「神楽」を一堂に会して、広島という「郷土の心」を振り返り、神楽のすばらしい伝統を受け継ぎ、守り育てている人々と共に「神楽」の明るい未来を求めていきます。

ひろしま神楽の祭典実行委員会

備後神楽
けんまい
剣舞

尾道市
さんば
山波神楽団

広島県の東部の瀬戸内沿岸から山間部へと広い地域で伝承される備後神楽は、もともと修験者の流れを持つ神楽太夫によってもたらされたと言います。山波神楽は、明治の初め神楽太夫から伊勢系の神楽を受け継ぎながら荒神神楽として村人が奉納したのがはじまりです。平成9年には尾道市の無形民俗文化財に指定されています。現在では、悪魔祓いなど6つの神儀舞いをはじめ五郎皇子など計十八の演目を保存伝承しています。剣舞は、東西南北の四方の舞い方によって、四振四剣の由来を語ります。東方は天蠶切の剣・南方は草薙の剣・西方は頭槌の剣・北方は十握の剣それぞれで神徳のある世々の宝で悪魔を払い、民を守る物語です。そして、中央の清らかな聖域に王流(神々)をお迎えして神遊びは始まるのです。



団長:松本護

■出演者

東方	太田将仁	大太鼓	神垣昌弘
南方	森田貴裕	大太鼓	杉原恭介
西方	高垣慎一	手打鉦	金田直樹
北方	井上真治		平林正年

■プロフィール

山波神楽は、明治初期神楽太夫から伊勢流の神楽を受け継ぎ、以来多くの先輩達が継承してきましたが、昭和45年に消滅しかけた神楽の保存を目的に保存会を結成し、結成30年を期に山波神楽団と改名しました。現在団員は小学生から大人まで総勢35人で活動しております。活動の範囲は地元良神社の大祭での奉納以外にも種々なイベントへも出演しております。また、後進の育成に力を入れており、地元小学校の神楽クラブの指導を通じて子供達が神楽に触れ楽しんでくれ我街の伝統芸能を後世に伝えてくれることを願って日々活動しております。

ひばこうじんかくら
比婆荒神神楽
ごさまい
莫座舞
さるたひこのまい
猿田彦の舞

庄原市東城町
比婆荒神神楽社

山陰と山陽を跨ぐ中国山地の山懐・比婆の里の比婆荒神神楽社は、全国でもめずらしい託宣神事として、昭和54年国の重要無形民俗文化財に指定され、伝承されています。この神楽は四昼夜通して舞われるものを大神楽、一昼夜のものを小神楽とされています。湯立神事からはじまり、籠遊びまで神事舞いを奉納される中、国譲りの能など物語り性の高い演目も組み込まれています。莫座舞・猿田彦の舞は、七つの舞いで構成する七座神事の中にあって、前者は座を清める舞、後者は所堅めの舞とも呼ばれ、悪魔祓いをしながら神々を神の座へ導く物語です。比婆荒神神楽は、本山三宝荒神に奉納する祖霊信仰の神楽として伝えられ三宝は仏教の仏・法・僧に由来しているものの、一般的に神霊・祖霊を敬い農業の守護を願うものです。



団長:横山邦和

■出演者

案人	嘉寿節紀	大太鼓	横山邦和
猿田彦之命	横山英史	小太鼓	横尾育伸
猿田彦之命	横山反和	手打鉦	磯川和夫
		笛	滝本明人
			磯川博之

■プロフィール

比婆荒神神楽は、最も古い形を伝承している貴重な神楽として、昭和40年、県無形文化財に続いて昭和54年、国の重要無形民俗文化財の指定を受けている。祖霊信仰の神楽で、神事、能舞、託宣、と三段に分けられるが神楽の源流を伝承しているといわれている。神子、棹、と法者が死霊を鎮魂し浄化する祭儀を神楽によっておこなわれていた。これが式年神楽が行われる要因でもある。今度は、七座神事の内天孫降臨の時孫孫命の導き先払いをした、と伝えられる猿田彦の舞を披露します。

安芸十二神祇
ごりゅうおう
五龍王

広島市佐伯区湯来町
みのち
水内神楽保存会

団長:西泰彦

■出演者

青竜王(太郎王子)	竹下亮太	大太鼓	西 泰彦
赤竜王(二郎王子)	西広直昭	小太鼓	山本信行
白竜王(三郎王子)	藤本顕多	手打鉦	矢野宏和
黒竜王(四郎王子)	小松永正	笛	矢野文男
黄竜王(五郎王子)	山本英二		
太刀納	岡山昭則		

安芸の国・広島独特の神楽として安芸十二神祇は、呉市から広島市周辺地域で継承されています。水内神楽保存会は、昭和38年五龍王で県の無形民俗文化財に指定されています。十二神祇は、古来神聖な数・十二を基に演目が整理されている処からの名称と言われます。五龍王は、浄めではじまり將軍で終わる十二演目の内、八番目に舞われます。そしてこの演目は、皇子道行・八ツ花・白湯・五刀・皇子合戦で構成されています。舞台は、青・赤・白・黒・黄の五龍王が登場し、それぞれの領地を主張して激しい戦いが起きますが、後に和解力を合わせて穏やかな国づくりをめざすという物語です。東南西北と中央・春夏秋冬と太陽と大地など中国伝来の陰陽五行説を神楽で表現したもので、他の地方では王子神楽・五行祭などの演目で舞い継がれています。



■プロフィール

水内神楽保存会は、湯来町に古くからあります水内神楽団と一体で活動をしております。水内神楽は江戸天保年間から250年余り続く伝統を今日に受け継ぐ歴史の古い神楽です。昭和38年4月には当団に伝わる「王竜王」が広島県民俗無形文化財に指定されました。以余先人たちの遺した伝統を大切に団員一丸となって神楽の芸、技の習練に励んでおります。また一昨年より子供神楽団も結成いたしまして後継者育成にも取り組んでおります。いまだ未熟な芸ではございますがよろしくお願いたします。

子ども神楽
新・新・新紅葉狩

北広島町
しんじょう
新庄保育所神楽団

神楽の里にある新庄保育所神楽団は、郷土を愛し、希望と誇りを持つ人に育つことを願って神楽に長年取り組み、その活動が認められ、昨年、県文化財協会から子ども文化財愛護活動表彰を受けられました。年長組になってから卒園するまで、1年の間ですが、一生懸命練習して舞台に立っています。新・新・新紅葉狩は、神楽・紅葉狩を基に創られました。信州・戸隠山を保育所近くの寒曳山に置き換え、維茂主従が酒に酔いしれる場面は毒ミルクに倒れることとなります。物語は、悪鬼が里人を困らせているある日、木こりが鬼女に食べられてしまいます。それを聞いた若者が鬼退治に山に登りますが、紅葉狩をする美しい姫に誘われて毒ミルクを飲まされ倒れます。やがて、毒が消え悪鬼を退治します。



団長:岩見仁美

■出演者

鬼女の大王	佐々木穂	大太鼓	岩見仁美
鬼女	佐伯未来	小太鼓	三上久美子
鬼女	吉本幸絵	手打鐘	石川瑞枝
鬼の手下	石橋龍昇	笛	平田義孝
鬼の手下	岩本歩生		
鬼の手下	佐々木大地		
神	和田直緒人		
神	小林るい		
神	白砂湧聖		
木こり&神	國芳勝也		
木こり&大鬼	浜田敏輝		
大鬼	北村嶺待		
大鬼	上長者春一		
大鬼	渡辺崇元		

■プロフィール

新庄保育所神楽団が、これから発表致します郷土芸能の神楽もみじ狩りは、これから育ちゆく子どもたちが神楽をとおりて郷土を愛し、郷土に夢と、希望と誇りがもてるように成長してくれることを望みながら取り組んでいるものです。日頃から、先輩の舞う神楽をみて育ち、年長組になってはじめてこの神楽に挑戦しています。昨年は長年、保育所が神楽に取り組んできたことが認められ広島県文化財協会から「こども文化財愛護活動」に貢献したとして表彰していただきました。このような活動が認められたのも一重に卒園時の皆さん園児や保護者、地域の皆さんのご協力があったからだ感謝しているところです。さて、今日舞います園児は、年長組になってまだ3ヶ月ですが、この3ヶ月間、一生懸命神楽の練習をしました。1回1回が園児にとって自分の役に取り組む大切な舞台となります。最後に、この舞台で子どもたちは沢山の皆様に見てもらおうことを、とても楽しみに今日の日を迎え、張り切っています。心を合わせ、頑張っ舞いますので、皆様のあたたかいご声援を宜しくお願致します。

本日の「ひろしま神楽の祭典」をインターネット上で配信決定! ▼携帯電話でアクセス神楽日程表

8月1日 配信開始

www.npo-kagura.jp

皆でつくる!盛り上げる!神楽ファン必見サイト
神楽情報サイト「神楽の杜」

注意:本日の収録状況によって、配信できない場合もございます。ご了承ください。